

第34回新薬創製談話会 開催報告

新薬創製談話会は1993年に発足した勉強会であり、新薬発見に情熱を燃やす産官学の研究者が集まって、研究振興、ネットワーキング、若手研究者の育成を図る場になっています。今年度は令和6年7月31日～8月1日に、公益財団法人日本感染症医薬品協会との共催で第34回新薬創製談話会を開催しました。特別基盤講演（1件）、特別講演（2件）、招待講演（6件）、若手研究者によるポスター発表（28件）を企画して、感染症やがん、生活習慣病など様々な疾患分野をカバーするだけでなく、新しいモダリティや標的的同定の方法論に関する研究成果が発表・討論され、情報交換が行われました。会には天然物化学やケミカルバイオロジー研究に携わる日本の主要な大学、国公立の研究所、製薬企業等より79名の研究者が集まりました。当該分野の最新の情報を得るだけでなく、参加者間の交流も深まり、大変有意義な談話会になりました。

第34回新薬創製談話会 “改めて考える感染症治療”

1. 日時：令和6年7月31日～8月1日
2. 場所：栃木・那須塩原 「乃木温泉ホテル」
3. 運営団体：
主催 第34回新薬創製談話会実行委員会
共催 公益財団法人 日本感染症医薬品協会
協賛 株式会社北浜製作所、日京テクノス株式会社（五十音順・敬称略）
4. 参加者：79名



実行委員長：大城 太一（北里大）、二村 友史（理研）
常任幹事：掛谷 秀昭（京大）、川田 学（微化研）、臼井 健郎（筑波大）、伊藤 昭博（東薬大）、
浅見 行弘（北里大）、荒井 緑（慶大）、田代 悦（昭薬大）
幹事：田端 祐二（Meiji Seika ファルマ）、谷口 昌要（大鵬薬品工業）、青木 雅弘（AMED）、
奥田 彰文（エーザイ）
監事：西村 慎一（広島大）、村松 康範（第一三共）
顧問：長田 裕之、塩見 和朗、供田 洋、井本 正哉、日野 資弘、及川 信三、新藤 一敏、
吉田 稔、早川 洋一

【プログラム】

1日目

13:15～14:00 **特別基盤講演**

早川 洋一（東京理科大学・名誉教授）
「探索研究の罫と進化する微生物」

14:00～15:00 **Very Short Oral Presentation (VSOP)**

15:05～16:05 **ポスターディスカッション**

（コアタイム：奇数 15:05～15:35、偶数 15:35～16:05）

16:25～17:10 **特別講演 1**

松本 壮吉（新潟大学・教授）
「抗酸菌の天然変性蛋白質による休眠とパーシスター誘導」

17:10～17:55 **特別講演 2**

松本 靖彦（明治薬科大学・准教授）
「真菌感染症に対する創薬を促進するための
in vivo スクリーニングの導入」

2日目

9:00～ 9:25 **講演 1**

畑 桂（エーザイ株式会社・ディスカバリーリード）
「新規メカニズム（GWT1 阻害）に基づく抗真菌剤の研究開発」

9:25～ 9:50 **講演 2**

八木 瑛穂（東北医科薬科大学・助教）
「カイク感染モデルでの延命効果を指標とした微生物由来の
抗酸菌症治療薬の探索」

9:50～10:15 **講演 3**

紙透 伸治（麻布大学・准教授）
「ヒトと動物のウイルス感染症を制御する天然物の探索」

10:30～10:55 **講演 4**

田代 悦（昭和薬科大学・准教授）
「TGF- β シグナルを標的にした抗がん剤開発への挑戦」

10:55～11:20 **講演 5**

生田目 一寿（アステラス製薬株式会社・主管研究員）
「アステラス製薬の iPS 細胞創薬自動化の取り組み」

11:20～11:45 **講演 6**

吉本 由哉（福島県立医科大学・准教授）
「放射線治療による抗腫瘍免疫の活性化と、それを利用した
治療法の開発（ α 線核種を用いた核医学医薬品の開発を含む）」